


# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの施設の家庭環境の中で共同生活を行い、心身の維持と自分の持っている力を使い安心して生活をしていただけるよう援助する。	○	地域に向けて説明会及び座談会等話す機会を設けることが必要と思われる。グループホームの趣旨及び内容を地域の方々にアピールしていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング、各部署ミーティング、主務者会、業務日誌にて注意点の指摘や指示をいただきながら日々の取り組みをしている。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議に来られない方には、封書にて連絡したり面会時に行っている。	○	地域の方々に定期的に施設の理解を深め協力を依頼する機会を設けたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	病院受診・買い物時挨拶等を行っているが親睦を深めるまでは至っていない。	○	ご近所の自治会の方々対し、親睦を深め協力を依頼する機会を設けたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会及び老人会が主催する芸能大会への参加や地域の清掃活動に参加し、地元の人々と交流を図る機会を持っている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症に対する地域の理解を深めていただくための手段を工夫している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価を参考に改善点を職員間で検討し、決まったことを実行している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族に対するアンケートを実施している。集計結果は運営推進会議にてご報告し、ご意見をいただいたことについては検討しサービスの質の向上に取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者より運営推進会議にて介護予防教室についてご説明をいただいている。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在行っていない。	○	今後必要あれば外部研修会等に参加し、理解を深める予定。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修及び身体拘束に関する研修会を事業所内でも実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用い、ご利用者並びにご家族に対しご説明し、承諾後署名・捺印いただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設置するとともに外部に第三者的な立場として苦情相談員2名配置している。利用者の代表者の方にも運営推進会議に参加していただき要望等を運営に反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議開催時に行ったり、面会に来られたときに行う。急な状況変化については電話にて報告する。月1回利用者状況便りを出している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時にご意見をお聞きしたり、年1回のアンケートを実施しご家族の意見に対し、職員間で検討している。また運営推進会議に参加して頂きご意見を反映させる機会を設けている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署別ミーティング(2か月に1回)や毎日のミーティング、主務者会で職員からの意見等を聞く機会が設けられている。職員からランチミーティング時や年2回自己申告書で意見等を提出してもらっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	希望を聞きながら柔軟に調整している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	課に適した職員が配属になるように人事異動については行っている。	○ 介護業界全体において離職率が増加しており当施設も例外ではない。今後は待遇面もさることながら職員が働きやすい環境づくり魅力ある職場づくりを行う必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育訓練の年間スケジュールを作成し、職員を段階的に育成している。また法人全体で行う研修会には、参加を促している。資格取得に向け有資格者がアドバイスをを行うようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在行っていない。	○ 定期的な勉強会を開催していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員相互が気兼ねず話し合える時間を作ったり親睦会等で気晴らしの機会を作っている。福利厚生センターに加入し、福利厚生事業の案内があれば職員に周知し、少しずつ増えさせてきている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回自己申告書を職員に提出してもらい、その意見を運営に反映する。また、職員が自己の長期・短期目標を設定し達成度を確認しながら働けるようにしている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には、ご利用者及びご家族と面接を行い家族環境や生活状況を聴きホームでの暮らし方について話し合いの中で合意している。その記録については、様式があり保管している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に見学にきていただき一緒に過ごす時間を作っている。またご利用者及びご家族と面接を行うようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接に行き、担当ケアマネージャーと相談する。時により主治医にも相談しグループホームの利用が可能か否か判断してもらおうときもある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後約1か月は、慣れていただくことからはじめ、他のご利用者とのコミュニケーションを図りながら過ごしていただく。本人の状況によりご家族と一緒に生活に慣れていただくよう相談しながらサービス提供を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者のリズムで生活が送れるようにしている。調理、清掃等家事については職員と共に行うようにしている。また、対話の中より昔のことを教えていただくこともある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族に話をし、常にご家族の希望を聴きながら一緒に支えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居後における「家族等の役割は何か」を明確にし、ご家族のご意見や事情をくみ取り支援している。ご利用者の生活に変化があれば連絡を密に取り、よい関係が築けるように支援している。	○	できるだけ行事等ご家族が出席していただけるよう参加を促していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に立ち寄りたり家の近くを通ったりとできる限りのことを行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	常にご利用者同士の関係に気を配り職員が中に入ったり一緒にいられるよう声かけを行い、参加していただくようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了者に対しては、ケアマネジャーに情報提供し、必要なサービスや情報を得られるようにしている。	○	現在は該当者なし。もし必要となった場合は実施していく。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス計画書を作成するにあたり検討し、ご利用者並びにご家族の意見を反映できるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接に行き、入居状況調査票にて情報を記載する。その情報を職員に回覧し周知徹底している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護サービス計画書を作成する際にケース記録及び生活記録表を参考にしたり、ご家族からも現状に対するご意見をいただき総合的に把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者の担当者を決め、介護サービス計画書作成にあたり事前にご家族にご要望等を聞きケアカンファレンスを実施している。会議については計画作成担当者、担当介護職員、介護支援専門員で行う。健康面、栄養面を主治医、栄養士に相談し指示をいただいている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現在6か月としているが、状況変化があったときにはサービス内容を変更して期間を短くしている。状況が改善できれば通常どおりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者ごとにケース記録に記載している。食事、排泄等の記録は生活記録表に記載している。この記録をもとにサービス計画書に反映している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近くの病院に入院中の方の面会に付き添ったり、徘徊等の行動障害があるご利用者については、本人に付き添い散歩を行うときがある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	特養と合同の防災訓練等の参加、近隣の小学校の運動会への参加。	○	今後は、民生委員への訪問、警察等にも挨拶に行き協力を依頼していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在行っていない。	○	ご利用者に必要なサービスがあれば実施していただくよう検討していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの保健師に運営推進会議に参加していただき、行政の立場から情報を提供していただいている。	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院主治医に定期的な訪問診療を行っている。受診結果は連絡帳に記載している。ご家族の希望により他の医療機関にも受診が可能である。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在、専門医への受診は2名である。その他のご利用者については主治医からアリセプト等の投薬がされている。ご利用者の状況により受診を検討する。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力病院の主治医とは、訪問診療時に相談している。居宅介護支援事業所の看護職(ケアマネジャー)に相談している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の医療機関に対し、施設での生活の情報提供を行っている。定期的に様子をお伺いに行き、看護職、主治医に経過を聞きながら退院が近づけば受け入れ態勢を整えるようにしている。退院時の情報提供をいただきながら受け入れているが今は入院者はいない。	○	今後該当者があれば、施設の入居を受け入れ、そのときの記録を確実に行っていく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化は徐々に進行している。しかし状態により入院されることがあり終末期はまだ迎えたことはない。契約時には口頭での説明は行っている。	○	年2回特養職員及び養護老人ホームの職員とターミナルケアに関する研修会を行っている。重度化及び終末期となった場合はご家族及び主治医と相談しながら対応方法を検討している。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在ない。	○	ご利用者にとってもっとも適切な対応方法は何かご家族及び主治医と相談しながら決めていきたい。施設での終末期ケアは困難であると思えるので家族に対して理解を求めていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在ない。	○	施設での生活状況を他の機関に対し情報提供していく。必要があれば記録を開示する。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	施設内の掲示にもあるように個人情報に関することは徹底して行っている。日頃よりプライバシーの保護に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	声かけによりご利用者にお聞きしながら対応を行っている。認知症によりこちらの伝えていることがわからない方もおられ、納得ができていないかどうか分からないときもあるため、ご家族とコミュニケーションをとりながら対応方法を決めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者第一を考えながら常に対応を行っているがすべてのご利用者に対して不十分なこともある。	○ 可能な限りご利用者のニーズに対して対応することが必要であり、ご利用者が安心して暮らせるような環境づくりが必要である。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご利用者及びご家族の希望により理美容は行くことが可能である。ご家族の協力を得て美容院へ行かれたり理容にお連れすることはある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の精神状態及び身体状況により声かけし行っている。ご利用者の好き嫌いを聞かせていただきながら楽しく行っているが食事作りを好まれない方もおられる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お正月や忘年会等でのお酒について支援しているが日常的には行っていない。おやつ及び飲み物については、ご家族が持参している。時々手作りおやつと一緒に手伝っていただいたりご家族持参のおやつを召し上がってもらっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	使用可能な方とか本人が望まれる方は紙パンツから布パンツにし、おむつ外しを行っている。排泄方法についてはマニュアルを作成し実施している。マニュアルを実施することによりトイレで排尿・排便が可能になった方もおられる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、曜日関係なく実施し、時間もご利用者の希望で行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご利用者の安眠妨害にならないようにパットの吸収力の高いものを使用している。	○	頻尿の方については、やむを得ないと思うが主治医に相談し医学的に判断を仰ぐようにしていきたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の精神状態及び身体状況により、日記等をつけてもらったり趣味活動や運動等を支援している。また本人の能力に応じて清掃、調理、ゴミ捨て等役割を持って実施している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者ご本人がお金を所持することの大切さは理解しているがご利用者がお金を使用する機会をあまり設けていないのが現状である。またお金の所持については、あくまでご利用者ご本人の自己責任の範疇である旨も入居時にご家族にお願いしている。	○	買い物等支援させていただけるようご家族と一緒に取り組んでみたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご家族の方の協力で外出されたり天候により外にて過ごされる時間はある。	○	できるだけ希望に添えるようにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	帰宅願望を頻繁に訴えられるご利用者については、ご家族に連絡し可能であれば外出をさせていただいている。訴えがない利用者については、検討が必要である。	○	ご家族の状況にもよるが、可能な限り外出を支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の訴えの状況により電話をかけさせていただくことはある。またご家族へのはがきを送ったり支援し大変喜ばれている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来ていただけるよう声かけ対応を行っている。	○	ご家族だけでなくその他の方にも気軽に訪問できるような働きかけを行っているがご家族にも協力を得ていく。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングにおいて身体拘束に関する話をし、正しく理解してケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけないようにしている。夜間は玄関に鍵をかけるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にご利用者の確認をしている。特に20時から、1時間ごとに確認するようにしており、安全の配慮を心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者の心身の状況に応じて日常生活に必要な物品を検討し、ご家族と協議の上、不必要な物品はお持ち帰り戴いている。当然心身状況の変化により必要な物品も変わってくるのでその都度対応している。	○	貸し出しについてはそのままにせず返却の確認を行う。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告を活用し、事故防止に向け取り組んでいる。研修を年度に2回実施し、危険予知トレーニングを実施している。	○	危険予知トレーニングを有効活用していく。取り組みはできていると思われる。職員のリスクに対する認識を高めることが必要である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを作成し、常時見やすいところに掲示している。今年度の応急手当の訓練は行えていない。	○	応急手当の研修は今後実施予定。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を行っている。地域の方々には協力体制をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては、入居前の面接時に説明をしている。また日々の生活の中でのことを面会時とか電話にて伝え、家族とのつながりを密にしている。	○	説明したときの対応の記録が必要であると思われる。今後は、記録を確実にとる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	状態変化時には早急な対応を行うようにしている。対応方法の記録については、連絡帳に記載し全職員が周知徹底している。	○	連絡帳を全職員が確認して情報の共有に努めている。記載方法については今後も検討していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明については、ご利用者ごとに管理している。薬の目的、副作用・用法について理解に努め、全職員が服薬時は必ず薬袋と利用者の顔を見て他の職員に聞こえる声で氏名の確認を行い服薬を支援している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の中でも食物繊維を多く含む野菜を献立に入れたり朝食時にはヨーグルト等便通を促すような食材をつけている。排泄チェックシートを参考にし、排便の間隔があいているようであれば主治医に相談し便秘薬を投与してもらう。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは毎食後実施している。実施の記録も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取及び食事摂取について記録を行っている。食事摂取量期限のある方についても気を配っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	研修会を年2回実施している。感染症予防については施設内に掲示している。来苑者がホールに入る前の手指の消毒について依頼している。	○	職員ミーティングで勉強会を行ったが新規職員にも解るよう勉強会を開いていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は地元業者に配達を依頼している。保管は冷蔵庫で行っている。注文書の控えを保管し、配達時は検品を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ご利用者に対してはホール内では靴を脱いで生活をしていただいている。地域の方が気軽に出入りができるようにするためには、さらなる工夫が必要である。季節感を感じていただけるような自然の花を生けたりご利用者に植えていただいたプランターをおいている。	○	地域の方が気軽に出入りできるような環境づくりや呼びかけが必要であると思える。今後取り組みに検討が必要である。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の中にある家具や机、配膳台等は手作りの物を使用している。光については、眩しくないよう配慮している。机の上には、ご利用者により季節の花が飾られている。ご利用者に季節感を感じていただくような環境づくりが必要である。ホール内には、日めくりカレンダーをおいてありご利用者にめくっていただくようにしている。	○	ご利用者に対し、季節感を感じていただくような環境づくりが必要である。自宅での生活に近づけるような環境づくりに工夫を凝らす。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には、約6畳半程の畳のスペースを確保している。そこで思い思いに過ごしていただくようにしている。冬場はこたつを設置し気軽に過ごしていただくようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家電製品等の持ち込みを自由に行っている。自宅で使われていた物を気軽に持ち込めるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房完備である。トイレには芳香剤を使用し消臭に努めている。また、暖かい日には窓を開け換気に努めている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、お風呂場に段差がついているが逆バリアフリーの観点で生活する中でリハビリを行う。段差等危険なところは職員が声かけにて対応する。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご利用者に残存能力を活かしていただくよう支援している。しかし利用者ごとに能力の違いがありトラブルになることがたまにある。	○	トラブル時には、職員が仲裁するようにしているが、かなり落ち込んでいるご利用者があり声かけ等による精神の安定を図る。また、事前にトラブルの要因を察知できるように取り組む必要がある。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には、花壇等がある。池もありご利用者が気軽に散歩ができるようにしている。少しであるが野菜作りを楽しんだり気分転換に草取り等を行っていただいている。	○	中庭には、プランター以外にも物干し竿台等もあったり、少しであるが気づきにくいところに段差があり躓きやすい環境である。常に気軽に散歩ができるような環境作りに工夫が必要であると思われ検討が必要である。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご家族に安心して任せてもらえる介護を職員全体で統一した質の高いサービス提供に取り組んでいる。  
ご家庭で食べられるような食事を職員と利用者と共に作っていく。(季節の味を味わっていただく)